

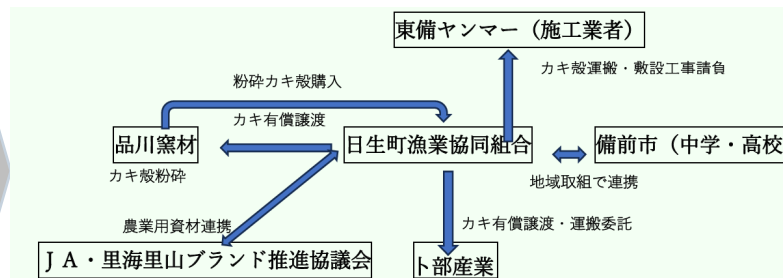


地域の概要及び課題

【地域の概要】

- ・組合員は120人（うち正組合員は74人）
- ・昭和54年からアマモ場の再生に着手、昭和57年からは海ゴミの持ち帰りを実施。アマモ場の再生に牡蠣殻を利用
- ・10億円を超えるカキ養殖があり、その他タイ、ヒラメ、サワラなど季節毎の魚介類を生産
- ・カキ殻処理業者が需要減を理由に受け取りを炎症
- ・牡蠣殻は底質改善に役立つことから、粉碎などして豊かな海創りの材料として利用

取り組みの実施体制、連携



R6年度モデル事業における取組内容および成果

かき殻



【カキ殻置場の様子】
一年間海中で保管・付着物を自然分解させたカキ殻を陸揚げし、更に一年間脱塩

かき殻粉碎



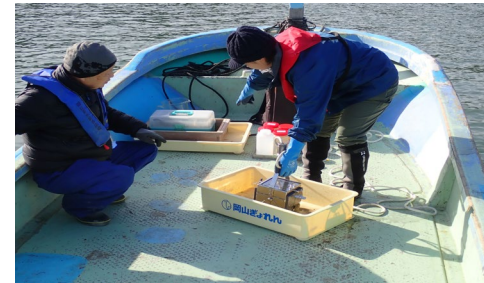
【粉碎前と粉碎後のカキ殻】
写真左が2－5mmに粉碎後。

かき殻を敷設



【カキ殻を海に敷設】
令和6年10月に自ら運搬し、クレーンで海底に計4か所を敷設

効果調査



【敷設した4カ所の海底底質】
令和6年11月に実施。来春以降に効果調査。軟泥、砂質、礫質、礫質（牡蠣殻混じり）の4カ所に敷設

今後の課題および 取組方針

- ・効果調査を実施することにより適正な牡蠣殻の敷設を進める
- ・アマモ場の保全活動や海底耕耘・海底清掃を併用しながら日生地区版の里海作りを進める
- ・カキ養殖筏のチップ化も進めており、循環型のカキ養殖を目指す